



しょうまん

小満（20日）… 園庭の緑がぐんぐん膨らみます …

私の好きな言葉に、「春は芽のもの、夏は葉のもの、秋は実のもの、冬は根のもの、これ全て自然からの贈り物」というものがあります。この時期、春に芽吹いた小さな芽や生き物などの命が、太陽の光を浴びてぐんぐん成長しています。小満とはまさに、その成長が際立つ季節です。日本は四季の移り変わりがとても特徴的で、長年にわたってそれに応じた生活を工夫する中で、豊かな文化が育まれてきています。季節の移ろいに気付くセンサーの感度を高められたら、さらに潤いのある楽しい生活ができるのではないのでしょうか。

## <麦秋至 ばくしゅういたる 5月31日～6月4日>

小満の末候は「麦秋至」です。あっという間に6月になりました。緊急事態宣言が解除され、ようやく幼稚園に子どもたちの声が戻ってきました。うれしい限りです。

再開の準備をする中で、先生たちは、立て看板や壁面装飾にはアジサイやカエルなどをあしらっています。今まで誰も経験したことのない特別な年度初めになります。4月には直前に入園式が延期になり、式花をキャンセルせざるを得なかったため、今回は万一のことがあっても花を無駄にしないで済むように、アジサイを中心にした寄植えをお願いしました。

## <オタマジャクシは小さなカエルになっています…>



わくわく池のオタマジャクシは、5月になると少しずつ足が生え、尻尾が消えて、気が付くと、池に小さなカエルがひしめいていました。5月中旬以降には、池の周囲を歩くと、足元に小さなカエルがピョコピョコと跳び跳ねていました。土や草の中では、姿が見えにくく、外敵から身を守っているのかもしれませんが。まだカエルになったばかりで、本当に小さくて、ピョンと跳んだときの足の細さやその動きを見ると、小林一茶の『瘦蛙 負けるな 一茶これにあり』という俳句を思い出します。健気な姿に思わず頑張れ！と声を掛けてしまいます。



穀雨の初候『葭始生』の際に紹介したトンボの幼虫、ヤゴが羽化した抜け殻です。体長4.5cmというかなりの大きさです。

この抜け殻から飛び立ったレアな大物『〇〇〇〇〇』とは、おそらく青緑色のきれいな『ギンヤンマ』だと思います。



少し小ぶりの『シオカラトンボ』も羽化していました。池に落ちてしまっていたものを主事さんが見付けてきてくれました。これはメスのようです。しばらくして、羽根が乾くと無事に飛び立っていきました。

